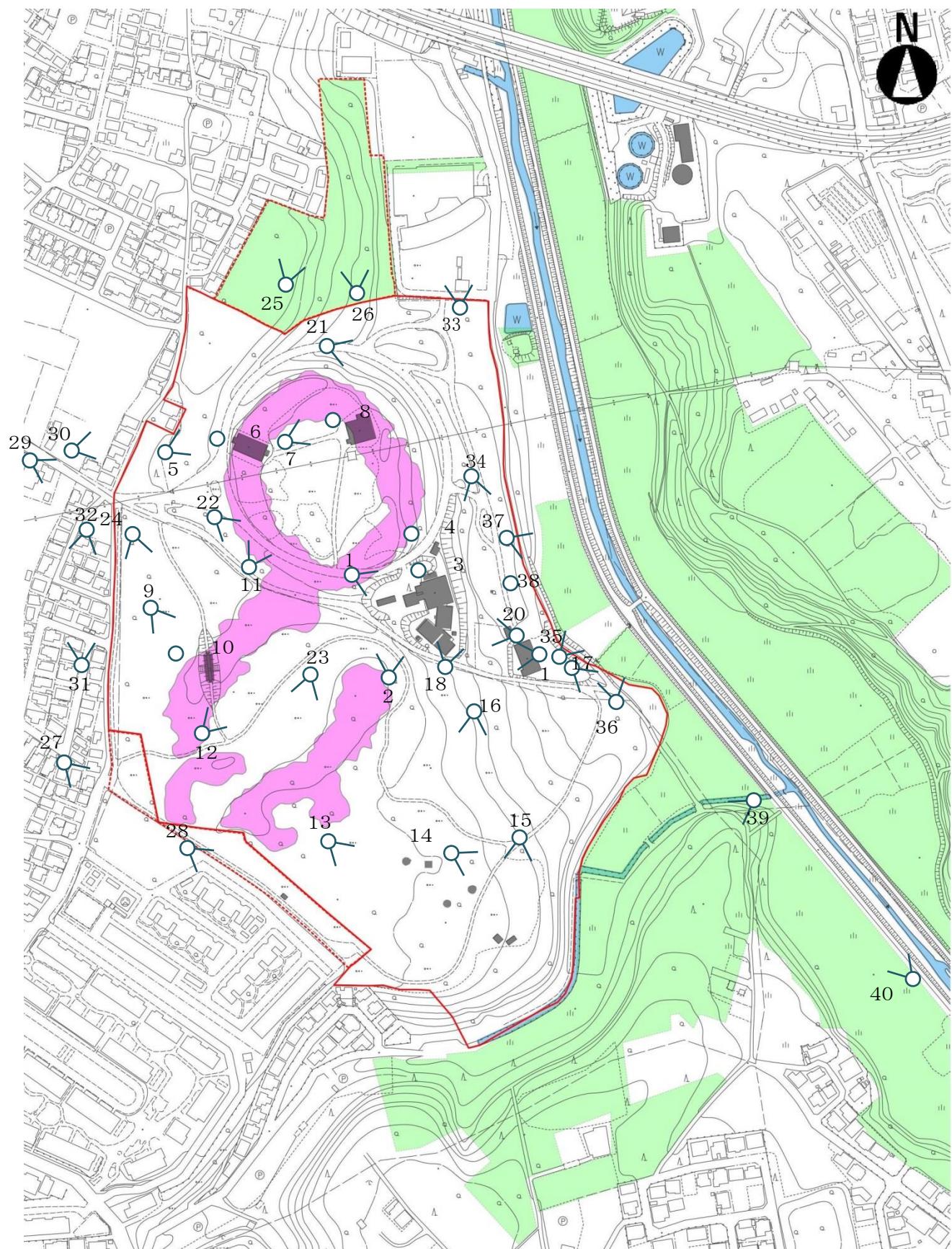


卷末資料

- 卷末資料1 史跡現況写真
- 卷末資料2 千葉市の現行施策(抜粋)
- 卷末資料3 社会的環境
- 卷末資料4 博物館来館者推移
- 卷末資料5 ボーリングデータ
- 卷末資料6 自然環境文献調査
- 卷末資料7 関連文献
- 卷末資料8 新聞記事見出し一覧
- 卷末資料9 文化財保護法(抜粋)

卷末資料1 史跡現況写真

卷末資料1 史跡現況写真



卷末図 1-1: 現場状況写真撮影箇所



写真1:加曽利貝塚博物館正面



写真2:博物館と収蔵庫



写真3:博物館脇のトイレ



写真4:園路脇のトイレ



写真5:北貝塚貝層断面観覧施設外観



写真6:北貝塚貝層断面観覧施設内部



写真7:北貝塚住居跡群観覧施設外観

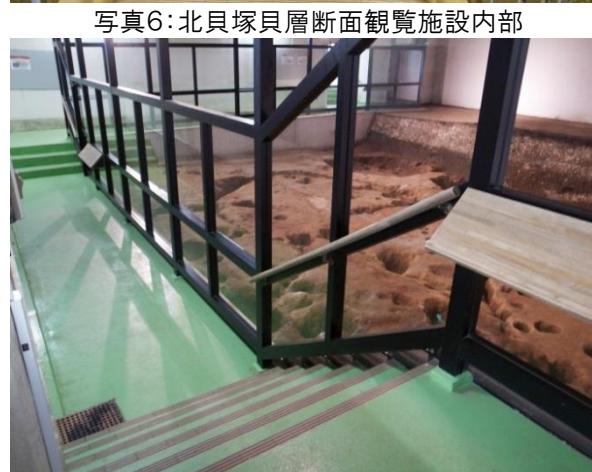


写真8:北貝塚住居跡群観覧施設内部

巻末資料1 史跡現況写真



写真9:南貝塚貝層断面観覧施設外観



写真10:南貝塚貝層断面観覧施設内部



写真11:北貝塚中央部の様子



写真12:南貝塚中央部の様子



写真13:復原集落の様子



写真14:竪穴住居跡



写真15:東傾斜面の緑地



写真16:緩斜面の草地保全地区



写真17:船着場推定地と指定地内を横切る道路



写真18:大型建物跡



写真19:旧大須賀家住宅



写真20:土器づくり同好会工房(同好庵)



写真21:北貝塚の舗装園路



写真22:北貝塚の舗装園路とベンチ



写真23:大谷石による貝層範囲の表示(南貝塚)



写真24:南貝塚の未舗装園路

巻末資料1 史跡現況写真



写真25:平成28年度追加指定範囲(北側)



写真26:平成28年度追加指定範囲(北側)



写真27:平成28年度追加指定範囲(南側)



写真28:平成28年度追加指定範囲(南側)



写真29:史跡正門



写真30:駐車ひろば



写真31:史跡西側の歩道



写真32:史跡西側の道路



写真33: 北側に隣接する桜木園側の出入り口



写真34: 史跡東側の道路



写真35: 坂月川へ下りる畦道



写真36: 史跡東側の谷津



写真37: 坂月川を挟んで対岸の緑地



写真38: 湧水が染み出る段丘の際



写真39: 縄文ほおじろの森入口



写真40: 坂月川下流から史跡方面を望む

卷末資料2 千葉市の現行施策(抜粋)

東京湾の水辺と下総台地の豊かな緑に囲まれた千葉市は、潤いのある緑と水辺のある都市生活を永く営みたいという願いを実現するため、昭和59(1984)年10月20日に「緑と水辺の都市宣言」を行いました。この宣言をひとつの拠り所として、市政の基本理念や基本目標を掲げた「千葉市基本構想」を最上位とする計画体系を構築しています。

『緑と水辺の都市宣言』(昭和59(1984)年10月20日)

【宣言全文】

私たちは、生命をはぐくみ文化を支える緑と水辺に恵まれた美しい環境のなかに住みたいと願う。千葉市は、東京湾の水辺と下総台地に広がる豊かな緑に囲まれ、縄文の昔から、恵まれた自然環境のなかで、健やかで活力に満ちた生活が営まれてきた。

私たちは、この千葉市に住むことを誇りとし、都市づくりの総べてにわたって、自然との調和を求めつつ、この緑と水辺を千葉市の個性にまで高め、これを次代に引き継ぎたいと思う。

このため、市民の総力をあげて、豊かな緑ときれいな水辺の都市づくりをすすめることを誓い、ここに、私たちの郷土千葉市を「緑と水辺の都市」とすることを宣言する。

『千葉市基本構想』目標年次:21世紀を展望(平成11(1999)年12月議決)

市政運営の指針として、変化の激しい時代であっても変わることのない恒久的な都市づくりの基本理念・基本目標及び望ましい都市の姿を示す。

～以下抜粋～

【基本理念】人間尊重・市民生活優先

【基本目標】人とまち いきいきと幸せに輝く都市

【望ましい都市の姿】

- ① 自然を感じるまち・千葉市
- ② 健やかに安心して暮らせるまち・千葉市
- ③ 安全で快適なまち・千葉市
- ④ 豊かな創造力をはぐくむまち・千葉市
- ⑤ 共に築いていくまち・千葉市

1 策定の趣旨

私たちは市民、民間団体、企業、行政が手を携えて、新しい世紀を生きそして暮らす市民一人ひとりが、生きがいと幸せを感じ、愛着と誇りの持てる「郷土千葉市」を築き、次の世代に引き継いでいくため、ここに「千葉市基本構想」を定め、21世紀を展望した市政運営の指針とします。

『千葉市新基本計画』 計画期間:平成 24(2012)～33(2021)年度

基本構想で定める基本目標等を実現するため、まちづくりの方向性や実現すべきまちの個性などを示す基本方針や今後の施策展開の方向性などを示すものです。

～以下抜粋～

「第5章 分野別計画」 方向性3 豊かな心が育ち、新たな価値が生まれるまちへ

3-3 文化を守り、はぐくむ

3-3-2 文化的財産の保全と活用

「文化財・史跡等の整備や博物館の充実などにより、市民が身近に本市の歴史・文化に触れ、愛着を深めることができる環境づくりを推進します。」

『千葉市新基本計画 第2次 実施計画』 計画期間:平成 27(2015)～29(2017)年度

市政運営の中長期的な指針である「千葉市新基本計画」に示すまちづくりの方向に進んでいくため、平成27(2015)年度からの3年間に重点的、優先的に取り組む事業を具体的に示すものです。

～以下抜粋～

3-3-2 文化的財産の保全と活用

【施策の展開】

- ・本市は加曽利貝塚をはじめ、多くの文化財を有するが、高度経済成長期以降に転入してきた市民が多く、地域の歴史や伝統に対する認識や理解が育ちにくい環境にある。
- ・適切な保護により後世に引き継ぐとともに、地域住民や関係機関と連携し、観光的な視点を取り入れた活用や、ふるさと意識の醸成を図る。
- ・加曽利貝塚の、特別史跡指定を目指し、関係機関との協議・調整を行うとともに、史跡内の環境整備などを進める。

【計画事業】

- ・加曽利貝塚の特別史跡指定に向けた取り組み。

加曽利貝塚総括報告書刊行

加曽利貝塚保存活用計画策定

加曽利貝塚広報活動

- ・歴史文化基本構想の策定

『第5次 生涯学習推進計画』 計画期間:平成 28(2016)～33(2021)年度

市民が自ら学んだ成果を生かし、活力あるコミュニティを形成できる環境づくりを推進するための取り組みアクションプランとして具体的に示すものです。

～以下抜粋～

2 多様な学習機会の確保

2-1 郷土への愛着を深める学習機会の提供

【施策の指針】

郷土に対する理解と愛着を深めるため、地域の歴史や文化資源を生かした学習機会を提供します。

【アクションプラン】

No.1 加曽利貝塚の国特別史跡指定

No.3 郷土の理解を深める講座・事業の拡充

卷末表2-1:市の施策と史跡整備

年 度		史跡整備に関する事項
昭和54	1979	<p>千葉市史跡整備基本構想策定委員会設置 主要遺跡の踏査、整備の現状と課題精査、基本的な観点の検討</p> <p>『千葉市緑のマスター・プラン』 緑地と一体となって遺されている文化財等を結ぶ「都川歴史と緑の道」整備。</p>
昭和56	1981	<p>『千葉市史跡整備基本構想』(昭和57年3月) 多分野の専門家による現地踏査や検討により、基本構想を作成。</p> <p>『千葉市新総合基本計画』</p>
昭和57	1982	<p>基本計画策定委員会設置 『史跡整備の方法－縄文貝塚の整備－』(昭和58年3月) 市内の縄文遺跡の保護・活用に関する理念、重要性・意義等をまとめた。</p>
昭和59	1984	<p>『千葉市緑と水辺の都市宣言』(昭和59年10月) 「千葉市は、東京湾の水辺と下総台地に広がる豊かな緑に囲まれ、縄文の昔から、恵まれた自然環境のなかで、健やかで活力に満ちた生活が営まれてきた。」</p> <p>『千葉市史跡整備基本計画』(昭和60年3月) 『史跡整備基本構想』に基づき整備の具体的な方法と全体計画を示す。</p>
昭和60	1985	<p>『史跡加曽利南貝塚整備基本設計』 植生調査、花粉分析、物理探査の成果と整備の実施設計。</p> <p>『千葉市第4次5か年計画』(昭和61年3月) 政令指定都市へ向かう総合計画の目玉として、加曽利貝塚と周辺整備を位置付け。 加曽利貝塚周辺地区に“縄文の森と水辺”をテーマとした公園整備を示唆。</p>
昭和61	1986	<p>『縄文の森と水辺基本構想 調査報告書』公園緑地部 周辺の環境、交通・都市計画、加曽利貝塚の特性等の調査結果と評価、整備の基本構想、縄文の森・博物館等施設の事業計画、事業費概算額を示す。</p>
平成2	1990	<p>博物館新館整備案を検討 『千葉市第5次5か年計画』(平成3年3月) 『千葉市加曽利貝塚遺跡周辺地域の自然環境調査報告書』</p>
平成3	1991	<p>加曽利貝塚博物館新館構想研究会 発掘・整備に関わってきた有志による研究会</p>
平成5	1993	<p>「縄文の森」内部検討会報告(平成5年10月縄文の森構想検討会) 縄文の森構想に参画するための基礎資料をまとめたもの。 『(仮称)縄文の森基本計画報告書』(平成6年3月)</p>
平成9	1997	<p>『千葉市緑と水辺の基本計画』(平成9年12月) 「縄文の森と水辺」構想の継続を明記するも将来の課題とする。</p>
平成14	2002	<p>千葉市観光コンベンション振興計画(平成15年3月) 「縄文の森と水辺」をテーマに加曽利貝塚周辺の保全・活用を図る。 博物館のリニューアルを目指し、世界遺産登録への取り組みを検討する。</p>
平成21	2009	<p>千葉市特別緑地保全地区の指定(平成22年2月) 加曽利貝塚を含む坂月川一帯22haを「縄文の森特別緑地保全地区」に指定。</p>
平成23	2011	<p>『緑と水辺の基本計画』(平成23年7月) ～縄文より引き継がれてきた住みやすさ日本一のまちを次代に～</p>
平成24	2012	<p>『千葉市新基本計画』 文化財や史跡の整備、博物館の充実により市民が愛着を深められる環境づくりの推進。</p>
平成26	2014	<p>『千葉市新基本計画 第2次 実施計画』 計画期間:平成27~29年度 加曽利貝塚の特別史跡指定に向けた取り組みとして、総括報告書、保存活用計画の策定。</p>
平成27	2015	<p>『第5次 生涯学習推進計画』 計画期間:平成28~33年度 郷土愛醸成のためのアクションプランの一一番目として特別史跡へ向けた取り組みを提示。</p>

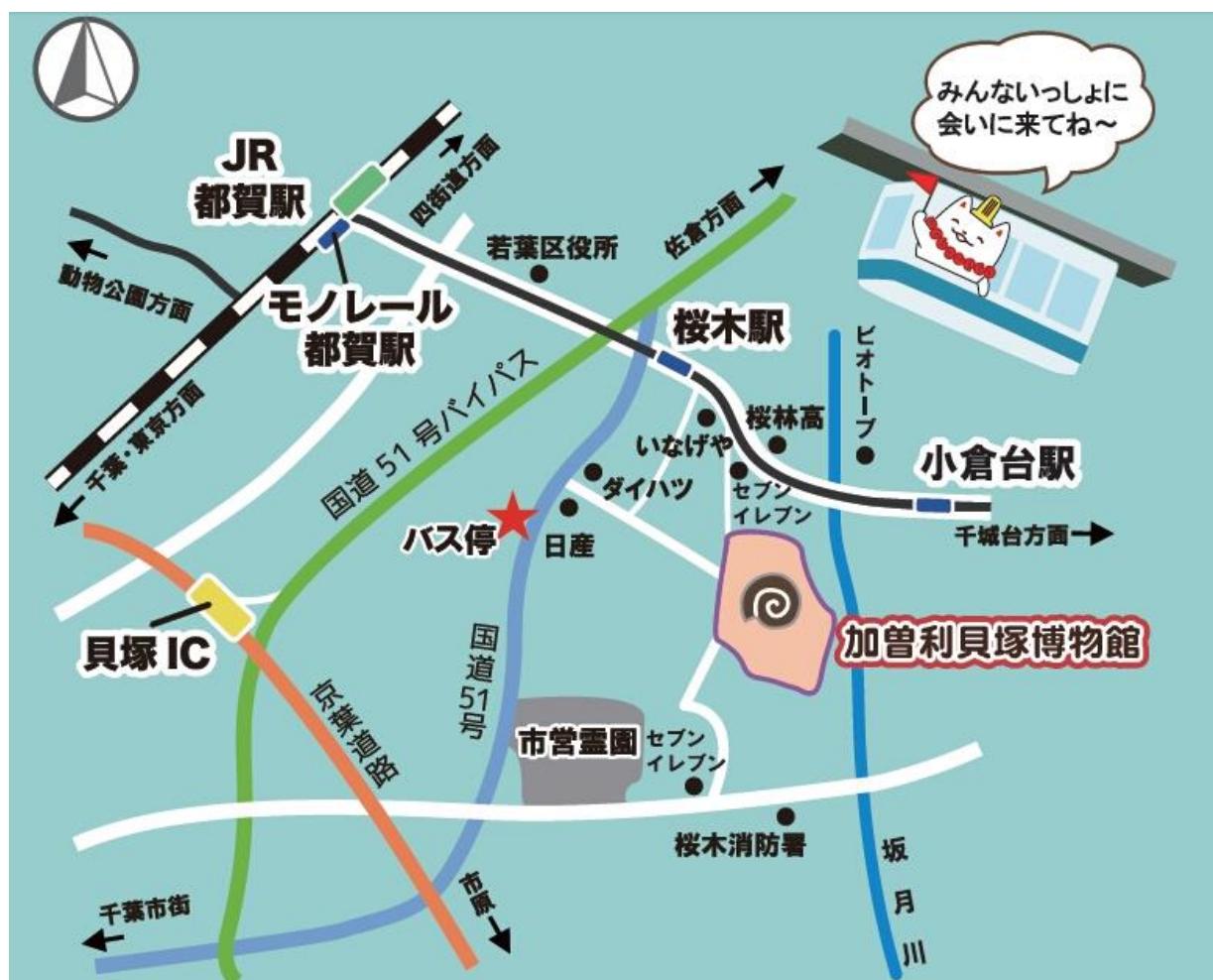
卷末資料3 社会的環境

1 交通

史跡加曾利貝塚は、桜木2丁目および桜木8丁目に所在し、坂月川を挟んで小倉町、小倉台に隣接しています。千葉市中心市街地の東方に位置し、JR 千葉駅から東へ約4km、千葉都市モノレール桜木駅および小倉台駅からはそれぞれ約 1kmの距離にあります。

道路網についてみると、京葉道路貝塚インターチェンジから東へ約2km、遠方から車で来られる利用者にも距離的にはアクセスしやすい位置にあります。ただし、幹線道路から史跡までの道幅が狭く、案内板も少ないなどの課題が山積しています。

路線バスルートは千葉駅より京成バス御成台車庫行き(市営霊園経由)があり、最寄りの桜木町バス停からは徒歩で15分程度の距離にあります。



卷末図 3-1:加曾利貝塚へのアクセスマップ

(千葉デザイナー学院の学生によるデザイン)

2 人口

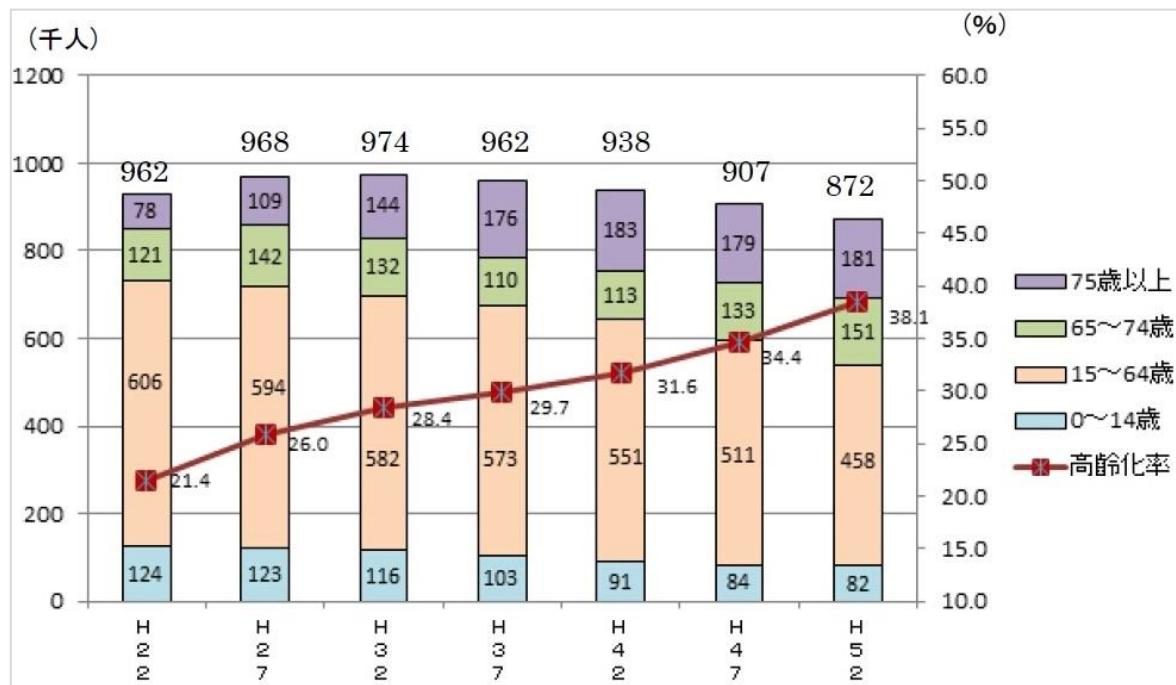
平成28(2016)年4月1日現在の千葉市の推計人口は972,289人、世帯数は420,286世帯、加曇利貝塚がある若葉区では人口151,112人、63,440世帯を数えます。どちらも近年の人口推移としては微増傾向が続いているが、これから数年以内に自然減が社会増を上回り、人口推移としては減少傾向に向かうことが予想されています。(図3-10 参照)

卷末表3-1:平成28年4月1日現在推計人口

区分	人口			世帯数	面積(km ²)	人口密度(1ha/人)
	総数	男	女			
千葉市総数	973,289	483,270	490,019	420,286	271.76	35.8
中央区	205,671	102,329	103,342	96,189	44.69	46.0
花見川区	179,135	89,422	89,713	77,806	34.19	52.4
稲毛区	161,312	80,388	80,924	71,435	21.22	76.0
若葉区	151,112	76,194	74,918	63,440	84.21	17.9
緑区	127,523	62,474	65,049	47,298	66.25	19.2
美浜区	148,536	72,463	76,073	64,118	21.20	70.1

* 人口・世帯数は、平成27年国勢調査結果速報を用い、住民基本台帳の異動を加減したもの。

* 面積は、平成27年10月1日現在の国土地理院公表面積。1ha=10,000m²=100×100m。



卷末図 3-2:千葉市の人口予測と高齢化率

(千葉市 第2次実施計画より)

3 工業

千葉市の臨海部に位置する中央区から美浜区にかけては、京葉工業地域の一角をなしています。「蘇我地区」は製鉄所や火力発電所等が、「中央港・新港地区」は千葉食品工業コンビナートを中心とした食品製造、運輸業、自動車整備、自動車小売業等が集積しています。

内陸部の花見川区から稲毛区を中心とした北部地域では、一般機械・金属加工型工業が盛んです。「幕張新都心地区」では、高層ビルのオフィス街に国内外の情報・通信企業や、流通関連企業が集積しています。平成28年1月29日には、幕張新都心地区が「東京圏国家戦略特別区域」の一部に指定され、近未来技術の実証や多文化都市の構築を後押しし、新産業の創出を目指しています。

4 商業・サービス産業

千葉市は県内最大の商圏となっており、サービス産業は市内の就業者の約85%が従事する主力産業となっています。これは他の政令指定都市と比較しても非常に高い水準です。

近世には江戸からの近さを活かし、江戸と房総半島を結ぶ陸海の交通の要衝として栄えてきました。明治初期には県庁が置かれ、県内の政治・経済・文化の中心地として飛躍的に発展してきました。空襲による戦災を経つつも、千葉駅周辺を中心に都市の整備が行われ、今日に至るまで商業の拠点となっています。1990年代以降は幕張新都心や蘇我地区などの臨海部にも商業施設が建設され、商業圏の分散化が進んでいます。

5 農業

首都圏近郊の農業地として、若葉区、緑区、花見川区北部などには広大な農地が広がっています。栽培されている農産物は多様ですが、東京などの消費地から近く、ホウレンソウや小松菜などが多くなっています。その他には全国2位の収穫量を誇る落花生や、指定産地になっているニンジンなどがあります。また、イチゴ、ブドウ、梨などの栽培も盛んで、収穫体験ができる観光農園も数多くあります。

酪農では、飼養頭数、産出額で県下2位、全国的に見ても高水準となっています。

市内に漁港はありませんが、県内の産地から多くの水産物が流通し、海苔、貝類などの加工食品が製造されるなど、食材の面でも豊かな住環境を形成しています。

6 周辺の地域資源

縄文時代から今日に至る歴史文化と、東京湾に面した海辺や内陸部の豊かな緑地などの自然環境が千葉市の地域資源として市域全体に点在しています。

千葉市の指定文化財としては、平成28(2016)年3月31日現在、国指定文化財7件、国登録文化財5件、県指定文化財29件、市指定文化財49件、市地域文化財10件の計100件の文化財が認定されています。

(卷末表3-2 参照)

国指定文化財7件の内、5件は加曾利貝塚をはじめとする月ノ木貝塚、荒屋敷貝塚、犢橋貝塚、花輪貝塚の大型貝塚が史跡として保存されています。(卷末表3-3 参照)

卷末表3-2:千葉市の文化財一覧

種類 区分	有形文化財							無形文化財	民俗文化財		記念物			伝統的建造物群	計
	建造物	彫刻	工芸品	絵画	書跡典籍等	考古	歴史資料		有形	無形	史跡	名勝	天然記念物		
国指定文化財											5		2		7
国登録文化財	5														5
県指定文化財	3	3	4	1	3	2		2		2	6		3		29
市指定文化財	6	16	3	1	1	7	1			1	12	1			49
市地域文化財	1				2		1			4	2				10
計	15	19	7	2	6	9	2	2	0	7	25	1	5	0	100

卷末表3-3:千葉市内史跡一覧

名称	備考
所在地	
指定年月日	
加曽利貝塚	直径約140mで環状の北貝塚と長軸約190mで馬蹄形の南貝塚が連接した8字状の貝塚。生活の痕跡は早期から晩期まで見られるが、貝塚は中期から後期の約2,000年の間に残されたもの。縄文時代のムラの様子を思わせる復原住居群や、実物の貝層を観察できる貝層断面の展示などがある。
若葉区桜木町	
昭和46(1971)年3月22日	
月ノ木貝塚	都川の支流に面した標高約25mの台地上にある、東西150m南北200mの馬蹄形貝塚。貝層の厚さは1.2~1.5mだが、中央の凹地に向かって次第に薄くなり、中央凹地部分には貝や遺物は散布していない。形成時期は中期から後期で、隣接する丘の上にへたの台貝塚がある。
中央区仁戸名町	
昭和53(1978)3月16日	
荒屋敷貝塚	中期から後期にかけてできた貝塚で、北側と南側は都川に注ぐ小さな川があり、その小川にはさまれた標高約31mの広大な台地上に位置する。直径約160mの環状に近い馬蹄形貝塚。ハマグリ、アサリ、キサゴ等の東京湾の干潟でみられた貝類が主体となっている。下部に高速道路のトンネルが走る。
若葉区貝塚町	
昭和54(1979)年3月13日	
犠橋貝塚	標高約26mの台地上に位置する後期から晩期の馬蹄形貝塚。貝層を構成する貝はハマグリを主体にアサリ、オキシジミ、キサゴなどの鹹水（かんすい）産貝類で、獣骨はシカが最も多く、サル、タヌキなども出土し、イヌの埋葬骨も発見されている。さつきが丘団地内の緑地公園として保存されている。
花見川区さつきが丘	
昭和61(1986)年10月23日	
花輪貝塚	直径約120mの環状で、中央がややくぼみ、縁辺部が高くなっている状況が実際に確認できるほど遺存状態は良好。後期前半（堀之内式期）に極めて短期間に貝塚が形成されている。イボキサゴが圧倒的に多く、次いでハマグリ、アサリ、シオフキがみられる。
若葉区加曽利町	
平成18(2006)年7月28日	

博物館、美術館なども数多くあり、考古、歴史、郷土、自然科学、動植物、美術、建造物など幅の広い選択が可能となっています。中でも千葉市立美術館は、房総ゆかりの絵画、江戸時代の浮世絵、現代美術を収集する美術館で、特色ある企画展を開催し、全国的な知名度も高い施設となっています。(卷末表 3-4 参照)

卷末表3-4:千葉市内展示機能を有する施設一覧

No./分野	施設名/所在地	見どころ
1 総合	千葉県立中央博物館 中央区青葉町 955-2	千葉県の自然と歴史について学べる総合博物館。隣接する生態園では、房総の代表的な自然が再現され、動植物の生態を身近に観察できる。調査研究、資料の収集・整理・保存活動を行っている。
2 考古	千葉市立加曽利貝塚博物館 若葉区桜木8丁目33-1	国指定史跡の加曽利貝塚に併設された貝塚と縄文時代をテーマとした博物館。史跡内には住居跡、貝層断面などの実物や、復原住居が見学できる野外博物館として整備されている。
3 考古	千葉市埋蔵文化財調査センター 中央区南生実町1210	市内の発掘調査で見つかった遺物や、調査の記録を常時公開している。その他、出土資料の速報展を実施。
4 郷土	千葉市立郷土博物館 中央区亥鼻1丁目6-1	古代から中世にかけて下総国を中心に活躍した千葉氏の居城・千葉城(亥鼻城)跡に建てられた博物館。外観は小田原城をモチーフとしている。展示は、千葉氏に関する資料や調査研究を中心的なテーマとしている。
5 郷土	千葉市ゆかりの家・いなげ 愛新覚羅溥傑仮寓 稻毛区稻毛1丁目16-12	古くから保養地として多くの文人墨客が訪れた稻毛の歴史を今に伝える貴重な和風別荘建築として千葉市地域有形文化財に登録された。昭和12年には愛新覚羅溥傑夫妻が半年ほど新婚生活を送った。
6 郷土	旧神谷伝兵衛稻毛別荘 稻毛区稻毛1丁目8-35	ワイン王として知られる初代神谷伝兵衛が迎賓用の別荘として大正7(1918)年に建設。市内最古の鉄筋コンクリート構造建物。市民ギャラリー・いなげの敷地内に所在。国登録有形文化財。
7 郷土	旧生浜町役場庁舎 中央区浜野町1290-3	昭和7(1932)年8月に竣工、昭和30(1955)年に千葉市に編入されるまで、生浜町役場庁舎として利用される。市内では数少ない昭和初期の木造洋風建築物。民具などの展示スペースも併設。市指定有形文化財。
8 郷土	稻毛記念館 稻毛区高浜7丁目2-3	稻毛の歴史・風土に関する展示施設や映写室、会議室や茶室・和室等がある。総ガラス張りの展望室も設置。隣接した回遊式の日本庭園には、本格的な茶会が楽しめる茶室「海星庵」がある。
9 科学	千葉市科学館 中央区中央4丁目5-1	子どもから大人まで楽しめる参加体験型科学館。プラネタリウム、ワンダータウン、テクノタウン、ジオタウンで構成。その他、実験室や講堂等でワークショップなどのイベントを多数開催。
10 動物植物	千葉市動物公園 若葉区源町280	34haの敷地に130種以上の動物が飼育されている。極力柵等を廃した展示方法や地域別に複数の種と一緒に展示する混合展示などが見られる。他にも動物科学館、動物ふれあいコーナーなどがあり、体験学習に力点を置いている。
11 動物植物	三陽メディアフラワーミュージアム 美浜区高浜7丁目2-4	千葉市の緑化の普及啓発の拠点施設「千葉市花の美術館」として開館。約1,600種48,000株の植物が植栽されている。企画展示、講習会の開催や園芸相談も行われている。
12 動物植物	千葉市都市緑化植物園 中央区星久喜町278	各種見本園やみどりに関する相談室等を備えた都市緑化活動の拠点施設として開設。各種講習会やみどりに関する相談、展示会等多彩な活動を展開している。
13 美術	千葉県立美術館 中央区中央港1丁目10-1	千葉ゆかりの美術資料を中心として体系的に収集・保管する。約33,000m ² の敷地に全8室からなる展示室があり、講演会等で200人収容できる講堂、情報資料室、研修室、3つのアトリエ等がある。
14 美術	千葉市美術館 中央区中央3丁目10-8	中央区役所との複合施設。さや堂ホールは、旧川崎銀行千葉支店の建物を保存・改修されたもの。建設省設立50周年記念事業「公共建築百選」にも選ばれた。展示室の他、図書室やミュージアムショップ、レストラン等がある。浮世絵のコレクションが有名。
15 美術	千葉市民ギャラリー・いなげ 稻毛区稻毛1丁目8-35	施設の貸出の他、企画展の開催、ワークショップや講座の実施等も行う。
16 美術	ホキ美術館 緑区あすみが丘東3-15	日本初の写実絵画専門美術館。コレクションは、保木将夫が収集した写実絵画作品、約350点から成る。カフェ・レストラン・ミュージアムショップ有。
17 文書	千葉県文書館 展示室 中央区中央4丁目15-7	県の行政文書や古文書等の資料を収集保存し、その活用を図るとともに、県の行政に関する情報を提供する。
18 人文	千葉経済大学地域経済博物館 稻毛区轟町3丁目59-5	県の歴史を経済史と経済伝承の視角から構成して展示する施設として、開館。
19 航空	千葉市稻毛民間航空記念館 稻毛区高浜7丁目2-2	稻毛海岸の干潟に、わが国初の民間飛行場が開設。当時活躍した民間飛行家や複葉機(鳳号)等を展示。紙飛行機工作教室等のイベントも行っている。
20 産業	千葉市ふるさと農園 花見川区三角町656-3	農業、農村の良さを市民に伝え体験する施設。長屋門や古民家の他、工房やガラス温室、大会議室、展示ホール等がある。講座も実施。
21 産業	ちばぎん金融資料室 中央区富士見2-3-1 塚本大千葉ビル2F	千葉銀行および前身銀行を中心とした金融史をはじめ、千葉県の発展の様子を紹介している。金融教育の場として、お金について楽しく学べるコーナーも設置。
22 産業	JFEスチール見学センター 中央区川崎町1番地	巨大な溶鉱炉と鉄の製造過程の一部が要予約で見学できる。見学センター内に、社史に関する展示あり。
23 その他	千葉ポートタワー 中央区中央港1丁目	昭和61(1986)年、千葉県民500万人突破を記念してオープンした展望施設。お土産売り場、レストラン有。潮干狩りもできる人工海浜が隣接。
24 その他	マリーンズ・ミュージアム 美浜区美浜1	毎日オリオンズ時代からのロッテの球団史について学ぶことができるミュージアム。野球場に関する様々な要素を実際に見たり触ったりして体感できる。

幕張新都心地区には、国際的なイベントや会議などが開催されるコンベンション施設の幕張メッセやプロ野球千葉ロッテマリーンズの本拠地千葉マリンスタジアムが、蘇我スポーツ公園には、サッカーJリーグのジェフユナイテッド市原・千葉の本拠地フクダ電子アリーナがあります。

年間来場者数60万人の千葉市動物公園、四季を通じてさまざまな自然の風景が楽しめ、「日本のさくら名所百選」にも選ばれた泉自然公園などの大規模公園、総延長4.3kmの人工海岸からなる海浜公園などが市内各地に配置されています。(卷末表3-5参照)

千葉市は、千葉県と共同で観光庁グローバルMICE強化都市にも選定されていることから、これらの観光資源を活用して、アフターコンベンションで千葉市を楽しめるプログラム整備にも力を入れており、加曽利貝塚もこれらの地域資源と連携し、活用を図っています。

卷末表3-5:千葉市内大規模公園一覧

No.	施設名/所在地	所管・広さ	見どころ等
25	青葉の森公園	県	広大な敷地に各種競技場、中央博物館、生態園、彫刻広場、西洋庭園、芸術文化ホールなどが配置されている。
	中央区青葉町977-1	53.7ha	
26	千葉公園	市	野球場、50mプール、体育館などの運動施設が整っている。梅雨時に見ごろとなる大賀ハスが咲く池では貸ボートがあり、四季の花にふれあいながらスポーツ・レクリエーションが楽しめる。
	中央区弁天3-1-1	21ha	
27	都川水の里公園	県・市	都川の治水対策の一環として千葉県が整備している都川多目的遊水地の上部を有効活用し、千葉市が公園として整備中。先行して整備された小川・田んぼエリアでは自噴井からの湧水を利用し、稻作体験などができる。
	若葉区大宮町ほか	43.8ha	
28	丹後堰公園	市	江戸時代初期に、寒川村の名主であった布施丹後が水不足を解消するため、用水を築いた。その功績を称え「丹後堰」と命名。湿原のビオトープと遊具がある芝生エリアが整備されている。
	中央区星久喜町1276他	0.35ha	
29	昭和の森	市	良好な自然環境が残され、四季を通じて草花や樹木、野鳥や昆虫など多くの種類の植物や生き物が見られる。平成元年には、「日本の都市公園100選」に選定。約109mのローラーすべり台と18の遊具が連続するアスレチックがある。
	緑区土気町22	105.8ha	
30	泉自然公園	市	できるだけ人の手を加えずに自然環境を保全し、四季を通じて多様な自然とふれあうことができる。「日本のさくら名所100選」に選定。菖蒲田、蓮池、野鳥や魚類、カエル等が生息する大小の池などがある。
	若葉区野呂町108	42.5ha	
31	花島公園	市	サイクリングコースに遊具のある公園などを配置した河川レクリエーションの場。野鳥も多くバードウォッチングが楽しめるよう、案内板等が整備されている。
	花見川区花島町308	14.9ha	
32	千葉ポートパーク	県	芝生広場、テニスコート、ウォータープラザなどが整備され、バーベキューも可能。隣接の人口海岸では潮干狩りができ、定期的に自然体験プログラムも開催されている。
	中央区千葉港1	28.3ha	
33	幕張海浜公園	県	日本庭園の「見浜園」や、茶室「松籟亭」は国際交流の場として利用され、広大な緑地は都会の中のオアシスとして、憩いの場となっている。
	美浜区ひび野	67.9ha	
34	稲毛海浜公園	市	日本初で日本最長(3km)の人工海浜は隣接のプールと行き来ができる、夏は多くの来場者が詰めかける。海浜部の緑地の中には三陽メディアフローミュージアム、航空記念館、サッカー場、ヨットハーバーなどが点在する。
	美浜区高浜7丁目	83ha	
35	蘇我スポーツ公園	市	プロのサッカーリーグやラグビーに対応した球技場と少年スポーツに対応したフィールドがショッピングモールと隣接して整備されている。
	千葉市中央区川崎町	46ha	



卷末図 3-3：千葉市の主な地域資源

